

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、鍛えよ『知・徳・体』	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) ・社会のために役立つと志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ・主体的な学びが育まれる学校 ・夢や志があり、誰もが通ってみたい学校 ・地域の活力の源として、信頼される学校
----------	--------------------	----------------------	--

評価計画					自己評価				改善方策	I 学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評価			コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	主体的・対話的・深い学びの創造	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びの実践 学習者用情報端末活用による積極的な授業改善 学力分析に基づく学力向上の取組(学び直しの場の設定、小中連携による授業研究) 共に学ぶ集団づくり 	①標準学力検査や生徒アンケートをもとに授業改善を行う。 ②担当教科で学習者用端末を使い授業改善を行う。	①「授業には自分から積極的に取り組むことができます。」に対する肯定的な回答80%以上 ②「クロームブックを使った授業は自分たちにとってわかりやすいと思いますか。」に対する肯定的な回答80%以上	①肯定的回答91.1% ②肯定的回答96.7%		①100% ②100%	①A ②A	①選択肢と自己決定のある自由進度学習に取り組み、公開研究会で提案した。また、標準学力検査等や生徒アンケートの結果について、校内研修で情報共有を行い、具体的な取り組みについて話し合い対応した。 ②各教科、各学級の活動の様々な場面でクロームブックを中心にICTを活用した。	①標準学力検査や生徒アンケートの情報共有を行い、教員間で連携を取って生徒への取り組みを行う。12月に実施するQUの結果を踏まえ、具体的な方針を決定する。 ②生徒の学習がより効果的になるICTの活用を、教員どうして使用例を共有しながら進めていく。	○			<ul style="list-style-type: none"> 生徒のための授業改善に学校として取り組まれています。 ほとんどの授業で生徒がICT機器を使っているのすばらしいです。 	
			家庭学習の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 学び方指導の充実 「自主学習ノート」の指導と向上 家庭学習の習慣化 	①生徒一人一人の実態に応じた課題の工夫 ②生徒の自主学習の紹介	①実施した100% ②学期に1回以上の実施	①100% ②100%		①100% ②100%	①A ②A	①主体的に生徒が学習に取り組めるように各授業で選択肢と自己決定のある授業を行った。授業をもとに自主学習ノートで復習に取り組む生徒も多かった。 ②参観日・学校行事や各学級において自主学習の紹介・交流を行うことができ、その後の自主学習につなげる生徒の姿が見られた。	①授業中の学び方の指導に加えて、課題の選択肢も各教科で増やす。 ②自主学習については生徒会執行部や委員会の取り組みと関連付けて取り組みを進める。	○		
	自己肯定感が高い心豊かな子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> 不登校未然防止 地域貢献意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> SSRの活用、相談体制の充実、小中連携の充実 生徒指導の三機能を生かした指導と生徒会活動の活性化(自治能力の育成) 校則の見直し 自主参加による地域ボランティア活動の充実 	①不登校等児童生徒支援会議の計画的実施 ②生徒指導に係る評価アンケートを全学年で実施する。 ③学校行事への生徒満足度。 ④地域ボランティア活動への参加回数。	①週1回以上 ②肯定的評価80%以上 ③肯定的回答90%以上 ④1回以上と回答する生徒50%以上	①100% ②89% ③98% ④59%		①100% ②100% ③100% ④100%	①A ②A ③A ④A	①「自分は周りの人から認められています」の質問に対する否定的回答が10%を超えている。 ②生徒と話し合いをしながら生徒指導規程の見直しを行うことができた。 ③体育大会などの学校行事の運営に関して生徒が主体的に取り組むことで、98%の生徒が充実感を得ることができた。 ④ボランティア部を中心として、ボランティア手帳を活用しながら多くの生徒が参加している。	①学級活動や学校行事等で活躍できる場を設け、自己有用感を高める取り組みを行う。 ②今後も定期的な生徒指導規程の見直しを行う。 ③学校行事を通して、リーダーシップや自己肯定感が高まるように役割を持たせ、やり切ることができるように支援を行う。 ④活動の中止や参加自粛により活躍や貢献の機会が減った。ボランティア部を中心に学校内に呼びかけを行う。	○			<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりを大切に、生徒の居場所が学校であるように取り組んでいると感じました。
健やかな体	体力向上と健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの分析による重点課題の克服 食育の推進 	①「体力・運動能力調査」で全国平均以上の種目の割合	①50%以上	①100%		①100%	①A	①全種目で全国平均値を上回ることができた。	①保健体育の授業において、単元に即した補強運動を継続的に取り入れていく。また、クロームブック等を積極的に活用して自分の動きや記録を振り返る活動を取り入れていく。	○			<ul style="list-style-type: none"> 将来にわたり、幸せに生きていけるように取り組まれていることは素晴らしいことだと思います。 	
			「金のルール」「食育」「久井中ノート」による生活指導(早寝、早起き、朝ご飯、食に関する関心の向上)	①生活アンケートで、「自分の食事について、栄養バランスなどを意識して食事をしている」に対して、肯定的割合	①80%以上	①91%		①91%	①A	①保健委員により、給食ニュースを毎日読んで啓発している。クロームブックを活用して家庭科の授業やお弁当の日の取り組みを行っている。保健室来室時には、生活習慣について個別指導を行っている。	①保健や家庭科の授業での意識づけを行っている。講師を招いてのお弁当の日の実施を予定している。	○			
信頼される学校	開かれた学校づくりと教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携教育の成果が保護者・地域に伝わるための情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 各たよりの発行 すぐーの積極的活用 小中高連携 	①各たよりの発行(月1回以上) ②小中高の交流回数(年3回以上) ③保護者の学校教育満足度	①100% ②100% ③80%	①100% ②100% ③87%		①100% ②100% ③100%	①A ②A ③A ④A	①学校だよりは月1回発行できた。 ②小中連携校として、毎週支援会議等で児童生徒の交流を行うことができた。また、卒業生の連携や、入試中高の連携も実施できた。 ④クラスルーム等を活用した各種たよりの送信を行うことができた。	後半は、入試関等で高等学校との連携をしっかりと重ねていく。また、引き続き、小中連携を行い、児童生徒理解に努めていく。	○			<ul style="list-style-type: none"> 地域や家庭と共に生徒を育成する取組です。 生徒を大切にするための教員の在り方を考えさせておられます。
			<ul style="list-style-type: none"> サービス研修の充実(不祥事ゼロ) 主任主事を中心とする組織的な学校運営 	①サービス研修(接遇研修を含む。)毎月1回以上 ②小中合同の学校経営会議を開催(月1回)	①100% ②100%	①100% ②100%		①100% ②100%		①100% ②100%	①A ②A	①サービス研修を月1回以上行うことができた。 ②小中合同の学校経営会議を月1回開催し、小中連携校として学校行事等の打ち合わせを行い、スムーズな学校運営をすることができた。	月1回のサービス研修以外に、臨時的研修を実施し、不祥事チェックリストの実施をする等不祥事防止の意識を高める。また、月1回の整理整頓日の徹底を図る。	○	
働き方改革	教育の質の向上を図るための環境づくり教育の質の向上を図るための環境づくり	「指針」に基づいた学校の取組を推進	<ul style="list-style-type: none"> 上限目安時間の管理(45時間/月) 週1回の定時退校日の徹底 組織的・計画的な学校運営による効率化 	①月の時間外在校等時間を45時間以内	①100%	①63%		①63%	①C	教職員17名の4月から9月末までの在校時間45時間以内での割合が63%であった。平日の部活動指導後からの成績処理等の業務や、休日の部活動指導等で、在校時間が増えるため、年間を通して、見直しをもって業務を行うことが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> 業務量や業務内容について会議等で検証し、仕事のムラや無駄を浮き彫りにすることで、業務の取組の差を明確にしていきたい。 引き続き、準衛生委員会を毎月確実に実施し、超過勤務の現状をペーパーで示し、現状把握と働き方を考える指標とする。 	○			

【j:自己評価 評価】
 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【I:学校関係者評価 評価】
 I:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
 ハ:分からない。